

多文化共生におけるコミュニケーションツールとしての

「ふみふみカルタ」の試みについて

小石 真子 (Masako KOISHI)

藤原 美智子 (Michiko FUJIHARA)・永見 純子 (Junko NAGAMI)

鳥取看護大学看護学部看護学科

【趣 旨】

わが国では人口減少化社会となっているが、法務省によると平成8年～28年の20年間で在留外国人は100万人以上増加している。新たな在留資格「特定技能」を有する外国人の受け入れがあり、今後も在留外国人の総数は増加すると見込まれている。

倉吉市においては、結婚、就労等の様々な理由で市内に居住する外国人が増加しており、平成27(2015)年12月末の外国人住民総数は234人であったものが、令和元(2019)年12月末には352人と50%増加している。国籍別の主な国としては、ベトナム(105人)、中国(69人)、韓国及びフィリピン(各53人)である。日本国籍を取得した人も多く在住しており、国際的な視点に立った人権尊重の社会づくりが重要になっている¹⁾。

このたび、高齢者等に使用している「ふみふみカルタ」が、在留外国人と日本人のコミュニケーションの一助となるのではないかと考えた。そこで、「ふみふみカルタ」のお題が在留外国人に理解され、日本人とのコミュニケーションに役立つことになるのかを考察する。

「ふみふみカルタ」とは、小石らが作成した、介護保険サービスを利用せずに生活している高齢者や通所介護の利用者の運動機能、認知機能、口腔機能の向上に加え認知症の重症化予防のため残存能力を引き出すことを目的として使用するツールである^{2)、3)}。カルタはA6サイズで28種類・30枚あり、ゲームの所要時間は30分程度である。ゲームをすすめるためのルールとしては、①カルタをめくる順番を決める、②カルタをめくった人がカルタに書かれている事柄を行う、③動作を行う際は進行役が音頭を取りながら全員で行うこととして、参加型で楽しみながら進められることを設定している。



写真1 「ふみふみカルタ」

【内 容】

鳥取県国際交流財団の「にほんごクラス（くらよし）」の講師および国際交流推進員の協力を得て、授業の初めに「ふみふみカルタ」を使ってもらい、活用の可否について講師から聞き取りをする。講師や国際交流推進員からの意見をふまえ、在留外国人とのコミュニケーションの基礎となる「お題」の内容を考察する。

【結 果】

令和3年12月に実施した調査の結果である。「にほんごクラス（くらよし）」の講師が5人の受講生に対して、授業の最初に「ふみふみカルタ」を用いた。その後、講師と国際交流推進員講師から聞き取りをした。

1. 授業で選択したお題は、以下のとおりである。

「昨日の出来事」、「行きたい場所」、「朝食の想起」、「明日の天気」、「趣味・楽しみ」、「好きな食べ物」、「好きな果物」、「好きなスポーツ」、「買い物」、「みんなに感謝」、「なつかしい歌」、「自慢話」。

以上の中から数枚のお題を実施した。難しい漢字の単語もあったが、それが漢字とその意味を学習する効果になった。

2. 授業で選択しなかったお題は、以下のように分類できる。

1) 今までに、「にほんごクラス」で行われていた。

「自己紹介」、「今日の日付・曜日」

2) 身体を動かすため避けた。

「手遊び」、「上肢の運動」、「足首の運動」、「深呼吸」、「笑う」

3) 簡単なため避けた。

「数字教え」

4) 意味や意図が伝わりにくかった。

「口腔体操」

【評 価】

名前や曜日・時間は、基本的な言葉で常に使われていた。

自分の日常生活に関する「ふみふみカルタ」のお題が、日常生活や自分のことを話すことのきっかけとなった。

新型コロナウイルス感染症のため、教室など集いの場や行動の制限があり、身体を動かすことに関連するお題は用いられにくく、口腔機能の向上に関する発声のお題はわかりにくかった。

以上から、「ふみふみカルタ」が在留外国人と日本人のコミュニケーションに役立つ可能性が示唆された。その一方で、在留外国人向けに改良する余地があることもわかった。

【課 題】

1. お題については、在留外国人が日常生活の中で安全・安心に暮らせるために、覚えておきたい事柄を見直す。また、お題の漢字・ひらがな・カタカナの表記方法やお題に関連した挿絵について検討する。

2. 新型コロナウイルス感染症のため行事の中止や規模が縮小され、対象者の参加が少なかったため、外国人の支援ボランティアと連携し、対象者の交流についての要望の把握に努める。

<引用・参考文献>

- 1) 第6次倉吉市あらゆる差別をなくする総合計画
https://www.city.kurayoshi.lg.jp/user/filer_public/d7/ef/d7ef1264-935c-407b-9bf2-3af7ab04b109/_di-06ci-arayuruchai-bie-wonakusuruzong-he-ji-hua-_ji-ben-ji-hua.pdf
(2022. 2. 18)
- 2) 地域密着型サービス利用者の認知症重症化予防のためのケア～ふみふみカルタを使ったレクリエーションゲームの試み～、日本健康医学会雑誌、p84-88、2020.
- 3) 一般高齢者に対して交流のツールとして健康カルタを取り入れた研究～団地に住む高齢者の介護予防に関わるリーダーの支援～、第24回全国の集い in Osaka、p59、2018.
- 4) おぼえてたのしい生活日本語かるた、公益社団法人国際日本語普及協会、2020.

【謝辞】本研究にご協力頂いた松本直子氏（鳥取県国際交流財団）、松本真美氏（日本語教室講師）に感謝申し上げます。